



社会情報学 一情報通信技術を社会に役立てるには—
 「社会情報学」とは「情報通信技術をどのように社会で役立てていくか」を考える学問です。新しい情報通信技術がスムーズに社会に受け入れるようになるには、それが社会にどのような影響を与えるかをよく考えます。

略歴

平成3年4月より足利工業大学で10年間にわたり教育研究に従事。平成13年10月より日本工業大学情報工学科で、ソフトコンピューティング、経営工学、PBL型社会実装教育に関する授業を担当。工学博士。システム信頼性、生産管理等に関連する最適化問題に対し、計算知能化技術を用いた解法の開発に従事。現在は、社会情報学に関する研究に従事。

所属学会など

日本経営工学会
 経営情報システム学会
 日本信頼性学会
 私立大学情報教育協会
 日本工学教育協会
 日本技術者教育認定機構（理事）
 経営工学関連学会協議会会長

研究紹介

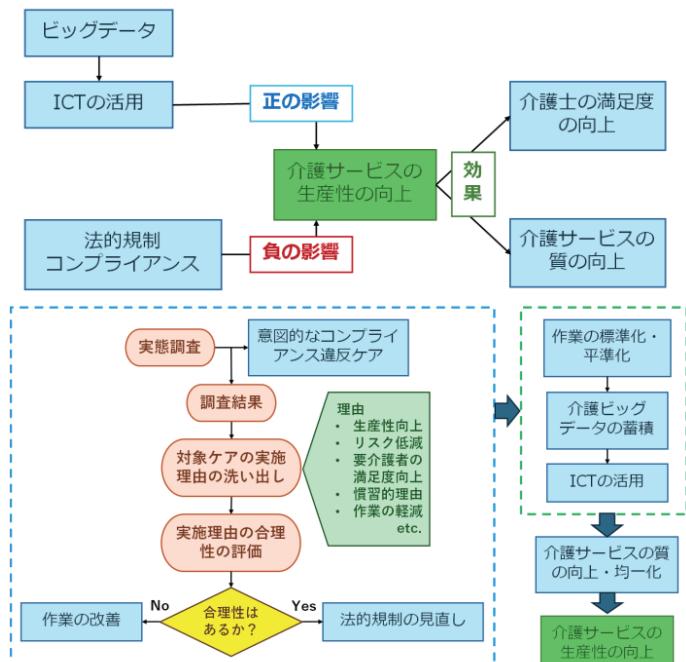
特別養護老人施設における生産性とコンプライアンスの関係に関する研究

(情報メディア工学科 高津研、千葉工大 丸山研、白井研との共同委託研究)

超高齢化が進む日本において、介護士不足は深刻な問題となっている。厚生労働省では、介護サービスの生産性を上げるためにICTの導入による科学的介護を積極的に進めているが、導入が進んでいない。進まない原因の一つとして、同じ目的の作業であっても施設や介護士によって手順や内容が異なるため、知識化が難しいことが挙げられる。例えば、これまでの特別養護老人施設におけるヒアリング調査の結果、意図的にコンプライアンスに反するケアを行なうケースが存在することが明らかになっており、感と経験に頼っているケースが多い。これにより、右上図のように、現場にとって法的規制は介護サービスの現場に負の影響を与えることがあるため、介護作業の標準化が阻害され、その結果、データが適正に蓄積されず、本来ならば介護サービスの生産性に正の影響を与えるICT化が進まないという構図になっている。そのため、DXが遅々として進まない。そこで、本研究では、右下図に示すように、このような現状について調査し、その合理性を評価することで、介護サービスの生産性とコンプライアンスの関係についてその関係性のあるべき姿を模索する。

共同研究の事例

数理統計アプローチによる業務改善に関する研究
 問題の数理的アプローチによる解法に関する研究
 情報教育カリキュラム設計に関する研究
 システム信頼性評価に関する研究
 社会実装に基づく教育方法論に関する研究 等



主な論文発表

- Hiroki Kozu, Kosuke Saito, Shunsuke Nakamura, Riho Kondo, Yasuhiro Tsujimura: A study on sensibility evaluation of thumbnails on online video sharing services for tourism targeting Japanese elderly people, *Journal of Global Tourism Research*, 9(1), pp.1-9, 2024
 Hiroki Kozu, Seiya Saito, Yasuhiro Tsujimura: A study on factors attracting customers to tourist facilities during the COVID-19 pandemic, *Journal of Global Tourism Research*, 8(1), pp.27-32, 2023
 大橋 裕太郎, 山地 秀美, 余野 文洋, 辻村 泰寛: コロナ禍の高等教育でのアクティブラーニング科目の運営と変化, *工学教育*, 70(3), pp.3_21-3_26, 2022